

第6学年1組 特別活動（学級活動）指導案

指導者 金坂 宜郎

展開場所 自教室

1 題材名 「もし学校が避難所になったら～自分達にできることを考えよう～」

2 題材について

（1）題材の目的と内容について

近年、日本では東日本大震災、御嶽山の大噴火、今夏の九州地方の豪雨などの自然災害による被害がテレビや新聞で報道されることが多い。報道では、多くの人命が失われたことや被害に苦しむ人々の様子が伝えられている。しかしながら、自然災害がもたらす二次災害や避難をしている人々の苦労までは、なかなか理解することができない。実際に、東日本大震災に被災され、未だに仮設住宅で生活を強いられている方々や、沖永良部島の火山噴火のために避難されている方々が数多くいる。これから数年、数十年の間に東海大地震、富士山噴火が起こると多くの研究機関から予測されている。その際、自分たちや近くの人々が避難者となることも考えられる。避難者の気持ちを考え、今の自分に何ができるのか。助け合い、支え合う思いやりの心を持つことで、よりよい社会を作っていけるのではないかと考える。

ボランティア活動は、地域の人々と交流することで、地域社会の一員として、自覚と役割意識を深め、人間尊重の精神に立って社会の中でともに生きる豊かな人間性を培うことができる。また、自分を見つめ直し自己実現に向かって人生を切り拓く力を育む上で大切な活動である。実際に大地震が起こり、学校が避難所になった際、児童が自分達にできることを考え、率先して行っていくことで、避難所に集まる全ての人が勇気づけられ、助け合いの輪が広がるのではないかと考える。

（2）児童及び家庭・地域の実態から

東日本大震災では、幸い、本校のある土気地区では、大きな被害を直接受けたという話を聞くことはなかった。しかしながら、土気地区が絶対に安全だと決めつけることはできない。また、旅行先などの出先で巻き込まれることも考えられる。つまり、いつ巻き込まれてもよいように心構えを持ち、準備することが大切なのである。しかし、本校の子ども達は、このような大きな自然災害を実際に経験しておらず、テレビを通してでしか知らないのが実情である。災害の恐ろしさや災害が引き起こす二次災害について本題材を通して知り、自分の命は自分で守れるように自己判断力を育てたい。

また、普段から災害に備えることの大切さに気付かせ、家庭での防災意識を高めていきたい。

あわせて災害の被害や災害発生後の避難所生活についても考えさせ、もし学校が避難

所になった時に6年生としてどのようなことができるのか、地域で生きる一員としての自覚と地域社会の安全に貢献する意識をたかめさせていきたい。

(3) 問題を自分のものとさせる工夫（当事者意識を持たせるシミュレーション学習）

大きな災害を経験したことのない子ども達には、災害を実感させることが困難であり、災害の恐ろしさを伝えるのが難しい。被災経験がなければ自分の問題として受け止めることが難しく、主体的な学習とはなり得ない。また、自分が被災した際に、ボランティアに参加し、地域社会のために貢献しようという意識も持ちづらいと考えられる。実際に被災するとどのような困難に直面し、どのような問題にさらされるのかを仮想することで、被災者の方々の苦労や思いに迫ることができると考えられる。そこで、「避難所HUG」（避難所運営ゲーム）を授業に取り入れることにした。

・「避難所HUG」

避難所HUGは、自らが避難所を運営する立場となり、避難所に殺到する人々や起こり得る様々な問題に対して、どのように解決するのかを考えるゲームである。本来は、避難所を開設する立場にある成人向けに開発されたものであるが、避難所で起こり得る問題について体験的に学ぶのに適した教材である。避難所には、様々な年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情を持った人々が集まってくる。その人々を、どれだけ優しく受け入れることができるのか。また、避難所で起こり得る問題についてどのように解決していくのかを考えていくことで、被災者の苦労や様々な問題について気づくことができると考える。実際に起こったらどうするかを真剣に考えさせ、話し合いを通して自分達にできることを見つけさせたい。

(4) 指導構想

本単元では、1時間目に自然災害とはどのようなものがあるのかを5学年の学習を想起させながら学級で話し合う。そして、実際の映像資料から自然災害や、その後起こり得る二次災害の恐ろしさについて感じ取らせる。その際、学校や家などでどのように行動すればよいのか、また基礎的な防災用語について確認する。さらに、災害による被害が大きい場合には、どうすればよいのか。自宅が危険である場合はどうすればよいのか。という問いから、避難所での避難生活をするに気づき、避難所ではどのような生活をする事となるのかを映像資料などから知る。

2、3時間目では、子ども達は4つのグループに分かれて「避難所運営ゲーム」を行う。カードの順番は全グループ同じにして、始めは指導者が読み手を行う。指導者が読み手を行うことで、児童の様子を見ながら問題場面での話し合いを活性化させたり、避難所に殺到している人々の様子を子ども達に体験させたりすることができるだろう。また、行い方やルールを理解させることができる。次に、行い方が身に付いた段階で、読み手をグループの子ども達に担当させながら行う。時間を決めて行うことで、避難所に

殺到してくる人々の様子を体感させることができると考えられる。しかし、カードを適当に配置しないように指導することが大切で、グループごとに配置をした根拠を確認する必要がある。また、子ども達が問題の本質がつかめるようにするために支援することも大切で、例えば「更衣用テント2基が、明後日に到着します。」といイベントカードであれば、何が問題であるのかを確認し、解決できるように助言する。解決方法は付箋紙に書き、後で話し合えるようにする。2時間目は行い方を身に付けることも考慮し、100枚。3時間目には残りの150枚を30分で行う。

子ども達が気付き、考え、話し合う中で、災害の恐ろしさや苦労を体験的に学習し、普段からの災害に対する準備の大切さや、大変な時だからこそ、支え合い助け合う思いやりの心が大切であることに気が付き、自分たちができることからボランティア精神を養いたい。

3 児童の実態（男子6人、女子14人 計20人） 平成27年 9月 4日実態調査

(1) 知識面

①災害にはどのようなものがあると思いますか。

- | | | | |
|-------|----------|-------|----------|
| ・地震 | 18名（90%） | ・津波 | 14名（70%） |
| ・土砂災害 | 12名（60%） | ・火事 | 12名（60%） |
| ・台風 | 6名（30%） | ・火山噴火 | 5名（25%） |
| ・豪雨 | 3名（15%） | ・竜巻 | 3名（15%） |
| ・洪水 | 3名（15%） | | |

*無回答なし

②「震度」の意味はなんでしょう。

- | | | | |
|---------|----------|--------|---------|
| ・地震の大きさ | 16名（80%） | ・わからない | 4名（20%） |
|---------|----------|--------|---------|

③「マグニチュード」の意味はなんでしょう。

- | | | | |
|--------|----------|---------|---------|
| ・わからない | 14名（70%） | ・震源地の深さ | 3名（15%） |
| ・ゆれの強さ | 3名（15%） | | |

④ライフラインとはなんでしょう。

- | | | | |
|--------|----------|----------|--------|
| ・わからない | 18名（90%） | ・水、ガス、電気 | 1名（5%） |
| ・食料 | 1名（5%） | | |

⑤避難所とはなんでしょう。また、みなさんの避難所はどこでしょう。

- | | |
|-----------------------|-----------|
| ・安全な場所で災害が起きた時に避難する場所 | 20名（100%） |
| ・学校や公園 | 20名（100%） |

⑥地震が起こる理由はなんでしょう。

- ・プレートがずれて起こる 12名 (60%)
- ・火山の噴火が原因 2名 (10%)
- ・わからない 6名 (30%)

(2) 意識面

⑦大地震が発生したらこわいですか。

- ・少しもこわくない 0名
- ・少しだけこわい 5名 (25%)
- ・どちらでもない 0名
- ・こわい 8名 (40%)
- ・かなりこわい 7名 (35%)

(3) 思考判断力

⑧大地震が起きた時に危険だと思う事はなんですか。

- ・物が倒れてきたり、落ちてきたりする 12名 (60%)
- ・建物が倒れたり、崩れたりする 12名 (60%)
- ・火事 10名 (50%)
- ・津波 8名 (40%)
- ・ケガ 2名 (10%)
- ・土砂災害 1名 (5%)
- ・電車の脱線 1名 (5%)
- ・水道管の破損 1名 (5%)

⑨大地震が起こった時に、心配な事はなんでしょう。

- ・家族 11名 (55%)
- ・家 7名 (35%)
- ・命 6名 (30%)
- ・友達 4名 (20%)
- ・食べ物 3名 (15%)
- ・津波 2名 (10%)
- ・土砂崩れ 2名 (10%)
- ・ケガ 2名 (10%)
- ・ペット 2名 (10%)
- ・今後 1名 (5%)

(4) 家庭での実践

⑩家庭で、地震などの災害について話し合ったことがありますか。

- ・ある 12名 (60%)
- ・ない 8名 (40%)

⑪「ある」場合、どのようなことを話し合いましたか。

- ・避難場所について 6名 (30%)
- ・その他 6名 (30%)

⑫大地震などの災害に、家庭で備えていることはありますか。

- ・ある 6名 (30%)
- ・わからない 14名 (70%)

*「ある」と答えた6名の内、4名（20%）の児童は、非常バックを常備していると答えた。

【実態調査からの考察】

（1）知識面について

5年生の理科の学習において、災害を学んでいることもあり、全員がなにかしらかの災害を回答していた。ほとんどの子ども達が「地震」と答え、「地震」に関する意識が高いようである。また、「地震」よる二次災害として考えられる「津波」「土砂災害」「火事」も回答率が高く、意識が高いようである。しかし、全員が理解しているわけではないので、本単元において、「地震」からの二次災害について指導する必要がある。また、「地震」について関心は高いが、「震度」「マグニチュード」の意味や違いについて、しっかり理解している子はいない。また、地震を起こす原因についてもプレート型と直下型、火山性地震の種類があることまで理解している子はいなかった。自分で判断できるように、これらの用語などについても授業で触れたい。

避難所については、全員が近くの公園や学校と回答しており、安全な場所という認識を持っていた。しかし、避難所では、どのような生活をしているかまでは想像できないようだった。本単元を通して、避難所での生活や苦勞などに気付かせたい。

（2）意識面について

子ども達が回答した災害の中で、最も回答数の多かった地震についての意識を調査した結果、学級の子ども達全員がこわいと感じていることが分かった。調査を行った数日前に避難訓練を行い、防災指導をしたばかりということもあったことがこの結果に繋がったことも考えられるが、本学級の子ども達は、地震により自分や家族、友達の命が脅かされる可能性を考えることができている。自分の命を守った次にできることを考えさせることができるような学習にしたい。

（3）思考判断力について

「大地震が起きたら時に危険だと思う事はなんでしょう。」という質問に対し、学級の子ども達全員が、何かしらの回答をしている。60%の子ども達は、地震の揺れで落ちたり倒れたりしてきた物が危険であることを理解している。また、半数の児童は、地震により起こる可能性のある火事や津波についても考えることができている。しかし、災害時には、様々な可能性を考え、命を守るために最善の方法を選択する必要がある。全員が最悪のケースをイメージできるように指導する必要がある。

また、避難所で生活するイメージは全く持っていない。避難所はどのような場所であるのかは漠然と理解しているようだが、実際にどのような人々が集まり、どの

ような問題が起こるのか。また、そこではどのように過ごすことが必要か。避難者全員が苦しい中、みんなで助け合い、協力していくことで過ごしやすくできることに気づかせ、地域社会の一員として貢献し、社会の一員として役割を自覚し、望ましい人間関係を築けるように判断できる力を育成したい。

(4) 家庭での実践について

災害が起こった時について話し合っている家庭は60%と、家庭での防災に対する意識は考えていた以上に低かった。話している内容についても、「起こったらどうするか。」「どこに避難すればよいのか。」まで細かく話し合っている家庭は30%にしか満たなかった。いつ、どのような時に災害に直面するのか分からないのが現実である。災害に巻き込まれた時には、どこにどのように避難をするのかを家庭で話し合ってもらえるように、子ども達を通して発信していきたい。

4 題材の目標

- 災害に関する基本的な知識を習得する。
- シミュレーション学習である「避難所HUG」をグループで行い、避難所で起こり得る問題を自分のものとしながら、避難者の気持ちに触れ、助け合い、協力し合おうとする態度を身に付ける。

5 題材構成（3時間扱い）

学習の目的	学習内容と活動	時配
<p>自然災害やそれによって引き起こされる二次災害の恐ろしさを映像資料から感じ取る。</p> <p>災害が起こった時にどのようにすれば良いのか話し合う。</p> <p>避難所での生活について映像資料をもとに感じ取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自然災害や二次災害について話し合う。 ○基礎的な防災用語について理解する。 ○映像資料を観て、感じたことを話し合う。 ○学校や家庭で大きな地震が発生した場合の適切な避難行動について考える。 ○映像資料から、避難所での生活がどのようなものなのか話し合う。 	1
<p>「避難所HUG」を行い、自分達が避難所を運営するシミュレーションをすることで、避難所での生活を仮想体験し、学校に避難所が設置された場合に、自分達にできることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「避難所HUG」を行い、避難所の運営者のシミュレーションを行うことで、避難者の苦勞や起こり得る問題に気づき、自分達にもできることを考え、話し合う。 	2 (本時)

5 本時の指導（3／3）

ねらい：「避難所HUG」を行い、自分達が避難所を運営するシミュレーションをすることで、避難所での生活を仮想体験し、学校に避難所が設置された場合に、自分達にできることを考える。

<展開>

時記	学習活動	○教師の支援・指導上の留意点	資料
導入 5分	<p>1 本時の学習課題について知る。</p> <p>「避難所HUG」を行い、ゲームを通して気付いたことを話し合おう。</p>		設定条件 掲示物
	<p>2 ゲームの進め方を確認する。</p> <p>・読み手はグループ内で行う。 ・避難者が続々と集まってくることを想定して、進める。 ・避難者を敷地内に配置する。 ・記入の仕方を確認する。 ・イベント（問題）には、必ず回答する。</p> <p>・ゲーム設定条件を確認する。</p>	<p>○様々な避難者が集まってくることや、実際に起こり得る様々な問題が起こることを児童に伝える。</p> <p>○避難者をどのように配置するのか、問題をどのように解決するのかによって、何が変わるのかを問いかけ、みんなができるだけ過ごしやすい避難所を運営することが目的だという事をつかませる。</p>	
	<p>3 前時のふり返りをする。</p> <p>・ 前時のふり返りから、反省点や気をつけたいことを確認する。</p>	<p>○前時の良かった点、悪かった点について話し合うように助言する。</p>	
展開 25分	<p>4 ゲームを開始する。</p> <p>・ 読み上げられたカードを学校の敷地内に配置する。 ・ イベントに回答をする。 ・ グループで協力し、互いに意見を出し合う。</p> <p>この避難者は、赤ちゃんを連れてきているね。</p> <p>体育館だと泣き声で、周りの人も困るかもね。</p>	<p>○ゲームを進める速さやイベントに対する回答などを確認し、助言する。</p> <p>・ 残り時間を児童に意識させることで、避難所に殺到する避難者の様子を体感できるように留意する。</p> <p>○途中、避難者の気持ちを考えた配置や回答があれば称賛する。</p> <p>・ ゲームをすることが目的ではな</p>	

<p>終末 15分</p>	<p>それなら、応接室ならどうだろう。</p> <p>5 ゲームを通して気付いたことを話し合う。</p> <p>一番困ったことは何でしたか。</p> <p>避難所では、様々な問題が起こるのだと知って、大変だと思った。</p> <p>5 災害時に避難所に避難してきたら、自分達に何ができるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な仕事をグループで考える。 ・自分ができそうなことをワークシートに書く。 ・本時のふり返りをワークシートに書く。 ・自分の意見と本時のふり返りを発表し合う。 <p>6 災害時の暮らしで大切なことを確認する。</p>	<p>いので、この後の活動時間を確保できるように留意する。</p> <p>○避難者の気持ちに迫れるように助言する。</p> <p>○運営をして困ったことは、避難者にしてみればもっと困っていることだと気付けるようにグループごとに助言する。</p> <p>○避難所で、どんな仕事が必要かを考えさせる。</p> <p>○意見が出ないときは、避難所HUGゲームをふり返り、自分達にもできそうなことを考えさせる。</p> <p>◎避難所でどんな仕事が必要か知り、自分達にできることを考えることができたか。</p> <p>○地域で生きる一員としての自覚を持ち、みんなで助け合うことの大切さを意識させる。</p>	<p>ワークシート</p>
-------------------	--	---	---------------